

沖縄市文化財調査報告書第48集

越來グスク概要報告

—2010・2011年度発掘調査—



2020年3月

沖縄市教育委員会

1. はじめに

本報告は、2010（平成22）・2011（平成23）年度に、個人住宅建設に伴い発掘調査を実施した越米グスクの概要報告です。

2. 越米グスクとは

越米グスクは沖縄島中部、沖縄市城前町に所在するグスクであり、地元では「ギイクグシク」と呼ばれています。

越米グスクの築城等について明確な記録はありませんが、現存する資料では『海東諸国紀』（1471年編集）に収められた「琉球國之図」（1453年作成）に「五欲城」（読み不明）と記されているものが最古です。越米は古くから中部の要地として有力な王子や按司が封じられており、「球陽」によると1435年に後の第一尚氏第六代王「尚泰久」が越米王子として、その後、阿麻和利討伐で功労のあった大城賢雄（鬼大城）は越米間切総地頭職を拝命、1470年には後の第二尚氏第二代王「尚宣威」も越米王子に封じられており、彼らは越米グスクに居城していたと考えられています。

「球陽」によると1611年には地頭代が置かれ、越米間切の行政の中心は越米番所に移った可能性が考えられます。近世以降の越米グスクは間切や越米村の年中行事が行われる場所として使われたことが『琉球國由来記』（1713年）や『琉球國旧記』（1731年）、『越米尋常高等小学校創立五十年記念誌』の記述に見られます。

3. 発掘調査について

越米グスク及びその周辺は、1985（昭和60）年度・2010年度・2011年度の計3回、いずれも個人住宅建築に伴い発掘調査を実施しています。2010・2011年度の調査地は越米グスクの北側端にあたり、住宅を1棟はさんで、2地点（2010年度約300m²、2011年度約650m²）の発掘調査を実施しました。

4. 層序について

2010年度調査では、遺物包含層は大きく4つの層に分けられました。I～II層は、青磁や白磁等の陶磁器類を中心に、貝や鉄製品なども出土しました。III層は赤土による造成層で、調査区南東側を中心に部分的に堆積していました。IV層になると貝や陶磁器類の出土が著しく減少し、グスク土器が主体を占めるようになりました。

2011年度では、遺物包含層は大きく3つの層に分けられました。I層は2010年度調査時I層に相当し、青磁や白磁などの陶磁器類が主に出土しています。II層は前年度III層に相当し、厚さ70cmの赤土の造成層でした。壁面において黒色の帯が数条確認できることから、造成は数回に分けておこなわれたのではないかと考えられます。III層は前年度IV層に相当し、同じく陶磁器類の出土が減少します。

2010・2011年度調査から、グスク時代に地形の造成が行なわれていることが分かりました。層序については、造成層（2010 III層、2011 II層）を境にグスク上層と下層に分けることができます。放射性炭素年代測定結果からは、グスク上層は13世紀末から15世紀前半が想定され、上限は15世紀前半と考えられます。グスク下層は13世紀末から14世紀が想定され、上限は14世紀末と考えられます。

5. 遺構について

2010・2011年度調査では、ピット、石列遺構、焼土面、炉跡、土坑、4本柱建物跡、円弧状遺構などが検出されました。炉跡については、出土遺物から鍛冶との関連が伺えます。また、グスク下層からは、1才前後とみられる乳幼児人骨が7体、成人人骨3体が見つかっています。

6. 出土遺物について

2010・2011年度調査では、青磁、白磁、陶磁器類、鉄製品、青銅鏡片、土器、石器、獸骨、貝などが出土しており、結晶質石灰岩製の穴のあいていない勾玉やガラス製の玉も出土しています。青銅鏡片は8点出土しており、久保智康氏の分析・評価によると、瑞花双鳳八稜鏡、双鳳八稜鏡、葉文鏡2面の計4面の銅鏡の一部と判断されています。瑞花双鳳八稜鏡の破片については、5点見つかっていますが、同一鏡であり、出土した鏡はすべて意図的に割った痕跡が見られました。また、鉄滓や鍛造潤片、羽口や砥石、金床石等の鉄を加工したと考えられる鍛冶関連の遺物も見つかっています。大澤正己氏の鉄滓等の分析・評価によると越來グスクでの精錬鍛冶の存在の可能性が指摘されています。

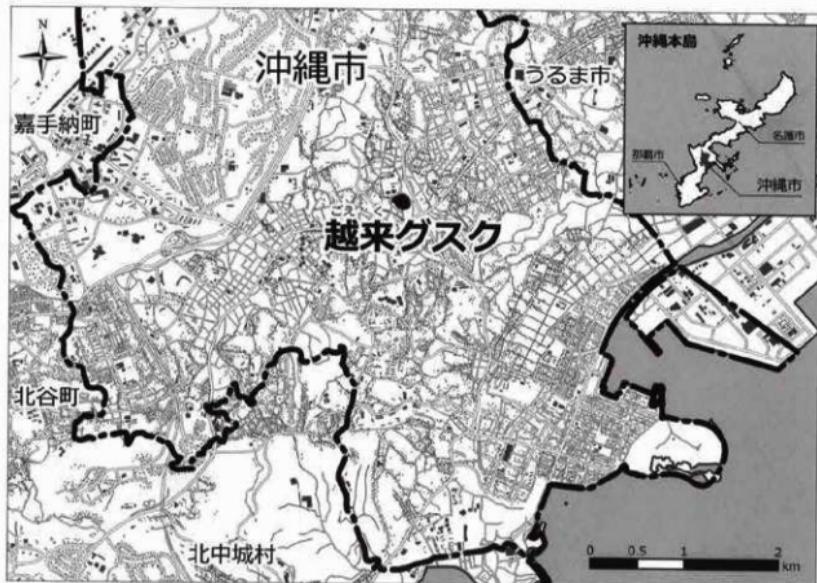
7. 終わりに

越來グスクの一部は、2019（令和元）年度に、国指定名勝「アマミクヌムイ」に追加指定されました。「おもろさうし」にアマミクが造ったグスクとして詠われている沖縄独特の聖地であることが評価されました。

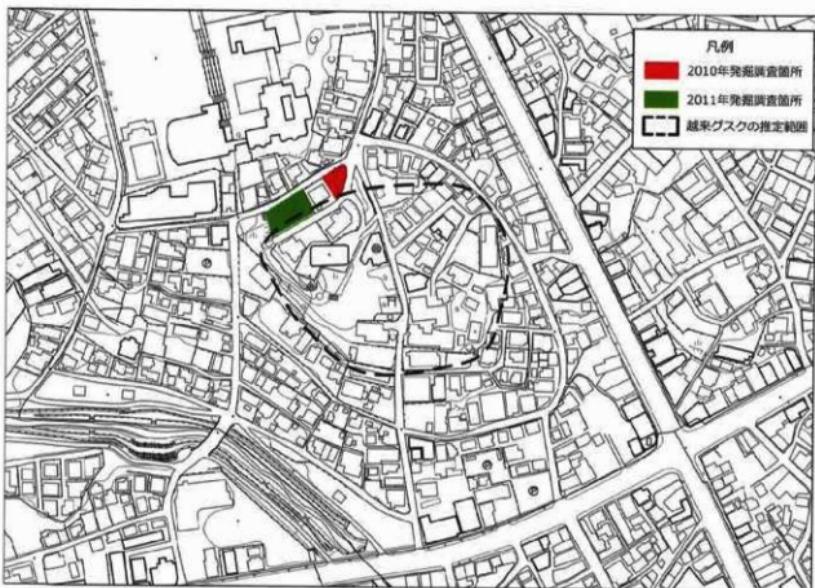
城郭は戦中戦後の開発で大半は失われてしましましたが、地形が残っているグスク北側の高台部分については、かろうじて地下に遺跡が残されています。部分的な発掘調査ではありますが、2010・2011年度の調査の発掘調査から、越來グスクの当時の変遷の一端を伺い知ることが出来ました。今後、詳細な分析を行ない、越來グスクの実態に迫っていきたいと考えています。

参考文献

- 『沖縄市文化財調査報告書第11集　越來城　－個人住宅建設に伴う記録保存調査及び範囲確認調査報告書－』
沖縄市教育委員会文化課 1988年
- 比嘉清和・島田由利佳「調査速報　越來グスク発掘調査の概要」『南島考古だより』沖縄考古学会 2012年
- 『越來グスクの隆盛～失われた歴史と創る未来～ 第40回企画展図録』沖縄市立郷土博物館 2014年
- 『沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 -地理・考古編-』沖縄市役所 2008年
- 久保智康「越來グスク出土鏡の意義　～蛍光X線成分分析の評価を中心に～」
- 『あやみや 沖縄市立郷土博物館紀要 第24号』沖縄市立郷土博物館 2015年
- 大澤正己「越來グスク出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」
- 『あやみや 沖縄市立郷土博物館紀要 第27号』沖縄市立郷土博物館 2019年
- 『アマミクヌムイ（越來グスク）－国指定名勝「アマミクヌムイ」「ごゑく（越來グスク）」に係る調査報告書－』
沖縄市教育委員会 2019年



沖縄市の位置と越來グスク

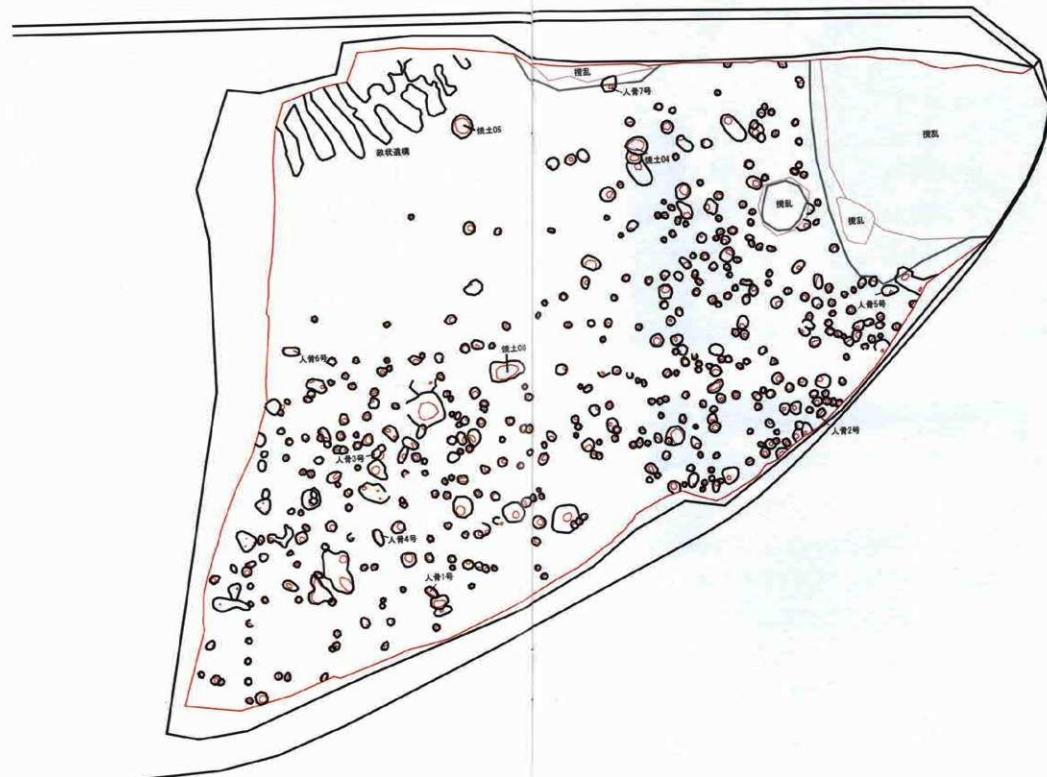


越來グスクの推定範囲と発掘調査箇所



2010 (H22) 年度 ゲスク上層 遺構平面図

1/100
 0 1 2 4m



2010 (H22) 年度 グスク下層 遺構平面図



着手前 北東から



表土除去 北東から



ゲスク上層遺構完掘 北東から



II・III層掘削状況



ゲスク下層遺構完掘 北東から



石列遺構検出 南西から



貝溜り検出 北から



焼土坑4半裁 南西から



人骨 1 検出 南東から



人骨 2 検出 北西から



人骨 3 検出 北西から



人骨 4 検出 南東から



人骨 5 検出 南東から



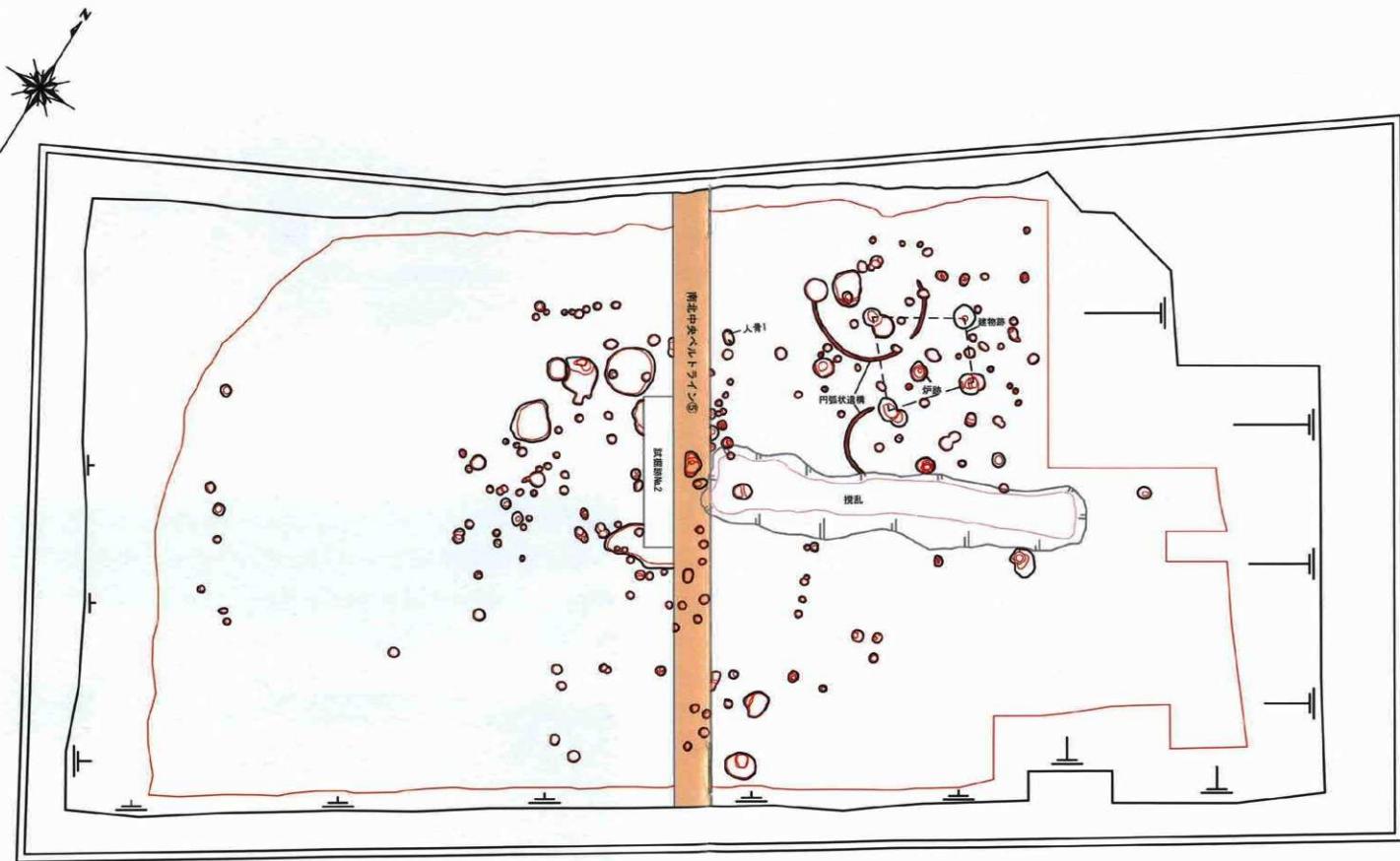
人骨 6 検出 南西から



人骨7検出 北東から



土層観察 南北ベルト壁面 南西から





2011 (H23) 年度 グスク下層 遺構平面図



着手前 南西から



表土除去 南西から



ゲスク上層遺構完掘 南西から



遺構掘削状況



グスク下層遺構検出 南西から



グスク下層遺構完掘 南西から



建物跡および円弧状遺構 北東から



土坑 (SK-003) 断面 南西から



炉跡 (SX-001) 完掘 南東から



炉跡 (SX-001) 断面 南西から



人骨1検出 北東から



人骨2検出 北西から



人骨3検出 南から



土層観察 南北中央ベルト壁面 南西から





石器2
(敲石・凹石・石斧)



土器



鍛冶関連遺物



鍛造剥片付着部拡大



瑞花双鳳八稜鏡



双鸞八稜鏡



素文鏡





2010 年度調査 遺構実測状況



2010 年度調査 II・III層掘削状況



2011 年度調査 遺構実測状況



2011 年度調査 遺構掘削状況

沖縄市文化財調査報告書第48集
越來グスク概要報告

—2010・2011年度発掘調査—

2020（令和2）年3月31日発行

発 行 沖縄市教育委員会
編 集 沖縄市立郷土博物館
〒904-0031 沖縄県沖縄市上地2-19-6
TEL (098) 932-6882
印 刷 株式会社 琉球コスモセブン
〒904-0031 沖縄県沖縄市上地3丁目2番20号
TEL (098) 932-4951

